

---

# 大日本悪魔法人

大輔華子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大日本悪魔法人

### 【Nコード】

N3359M

### 【作者名】

大輔華子

### 【あらすじ】

200文字小説企画参加作品です。

テーマは『言ノ葉ノ悪魔』です。

## 【資格試験】

公認悪魔士資格試験の会場。

筆記試験にパスした三名が面接に臨む。

面接官『あなたの特技は？』

言君「悪魔のささやきです」

葉君「悪魔に魂を売らせることです」

兎さん「鼻にかかった声です」

ン？何か場違いな女がないか？ひよっとしてこいつは？

兎さんは愛らしく面接官にウインクをしてみせる。

面接官の悪魔士は独身で女性との関係には不自由している。

彼は三人を待たせて入口の看板をこっそりと『公認小悪魔試験会場』に変えた。

## 【資格試験？】

公認悪魔士資格面接試験の会場。

面接官『資格を得たら何をしますか？』

言君「人間に大量破壊兵器を与えます」

葉君「虐待を奨励します」

豚子さん「プール付きの家を買ってもらいます」

ん？また変な女がいるゾ。

ぶっ豚子だと？

まさかこいつも小悪魔か？

豚子さんは面接官の前で色っぽくストッキングを直す。

面接官の悪魔士は独身で女性との関係には不自由している。

しかし入口の看板を『小悪魔試験』から元の『悪魔士試験』に戻した。

## 【人間さがし】

公認悪魔士事務所の仕事は最近激減してきている。

偽善者が増えているので悪魔か人間かの区別もつかない。  
悪魔士の先生は生徒の中に人間の匂いを感じた。

先生は疑わしい生徒に質問した。

『君は人間に何をあげますか？』

「毒薬をあげます」

小悪魔の兎さんも負けじと言った。

「間違つて変な男掴んじゃったからあなたにあげます」

そしてもう一人の生徒が言った。

「間違つて魚雷作っちゃったからあの船にあげます」

『こいつが人間だ！』

【悪魔のささやき】

悪魔のささやきを特技とする悪魔士の言君が人間界にデビューした。

彼はさっそく混雑する朝の通勤電車に乗り込み若い女性のうしろに立って耳元でささやいた。

「斜め前の男のズボンのポケットから札入れが飛び出ているよ」

すると彼女はいきなり振り返って言君の横っ面をひっぱたいた。そして大声で叫んだ。

「このエロボケカス！」

呆気にとられる言君を尻目に彼女は次の駅で降りていった。

言君のすぐ隣にはよだれを垂らした男がいた。

## 【悪魔に魂を売る人たち】

悪魔に魂を売らせることを特技とする葉君が人間界にデビューした。

人間界は今まさにW杯サッカーで沸いていた。

葉君は日本の選手全員を力士に代え一億円を渡し負けるよう指示した。

計画は万全だったが、相手国の選手が国歌を斉唱する際に一人音痴が居て、マイクがこれを拾ってしまい世界中に変な国歌が流れた。

試合が始まってからも、オンチはお前だ！と互いにののしり合う相手国は、オウンゴールを連発し計画はぶち壊しとなった。

【小悪魔デビュー】（男性閲覧禁止！）

鼻にかかった声を特技とする小悪魔の兎さんが人間界にデビューした。

彼女はその声でお金持ちの男性をたぶらかし、さらに夜中に寝ている彼の左手の小指にこっそり赤い糸を結んだ。

しかし、よく見てみると彼の（問：適切な語句を埋めよ）にはすでに赤く太い糸がしっかりと結ばれており、その糸には【華】と書かれたタグが付いていた。

翌朝、その糸は突然ピンと張った。

小悪魔の兎さんが結んでいた赤い糸はぷつんと切れた。



## 【悪魔城陥落】

公認悪魔士協会の会長は、新人悪魔が人間界で酷い目に遭っているのを見ていらついた。

そしてついに聖書の予言する悪魔の数字『666文字企画』で人間を懲らしめようと考えた。

こうなれば悪魔も神頼みである。

ところが参画した誰も呪いにかからない。

『668字になっちゃったヨ』

『無理〜660字でネタ切れ』

どいつもこいつもテキトーな奴ばかりだ。

会長は送られてきた小説を改稿して投稿した。

その後会長の姿を見た者は居ない。

## 【言ノ葉ノ悪魔】

この話は、実はコメディィを装ったホラーなの。

ユーザーの方。

投稿した小説に呪いの数字666字ピタシのものが無くなって？  
読んだあなたも同じ運命。

ふふふ。気を付けなさい。

ええ？

そうじゃないの。

死ぬんじゃないのよ。

もっとずっと怖いの。

もともとあなたはこの世に居なかったということになるのよ。

手遅れかも。

でも早く句読点追加して呪縛を解いた方がいいわよ。

ほほほ。ほーほけきよ。

(あたま壊れたかな？違う。もとかからだ)

## 付記【夢詩（合コン用）】

一篇詩をしたためました。

いつの間にか心奪われ合った男と女の境界線・・・。

まだまだついて行きたいけれど、この橋越えたと戻れなくなる。

本当は桜の花びらのように川面に散ってずっと流れて行く私になりたい。

いつの間にか心奪われ合った男と女の境界線・・・。

私が一人で帰るときは、いつもあなたの笑顔思い浮かべてる。

本当は桜の花びらのようにはらはらとあなたの肩にこぼれ落ちて、あなたについて行く私になりたい。

【華】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3359m/>

---

大日本悪魔法人

2010年10月9日18時19分発行